

幼児教育研修（年齢別運動あそび0.1.2歳児）

0.1歳児 受講者数123名

2歳児 受講者数 86名

配信期間 令和4年9月15日（木）～10月6日（木） オンデマンド研修

講師 日本体育大学 児童スポーツ教育学部 助教 河田 聖良 氏

【内 容】～乳児期の子どもの運動あそびと発達について～

乳児期の運動あそびは運動技能の向上を図ることだけが目的なのではなく、子ども自らが体を動かすことを楽しいと感じ、主体的な遊びの中で様々な動きを獲得していくことです。また乳幼児にとって環境との関わりそのものが運動あそびなので、やってみたいと思える環境づくりが大切です。

【受講者の感想】*** 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

- ・運動あそびとは、自主的・主体的な遊びの中で様々な動きを獲得することであり、心と体が動く全ての活動を示す。子どもが五感を全て使い、感じる・動くことのできる環境づくりを研修で学んだいくつかの観点から見直し、考えていきたい。（0, 1歳児）
- ・子どもの成長に応じた保育の環境づくりの大切さを学んだ。子ども一人一人の発達に応じた環境を用意し、保育者の目線で判断しないこと。楽しい遊びの中で体の発達を促す遊びを用意したい。（0, 1歳）
- ・一人一人の成長発達を見ながら、環境設定をし「少し挑戦的な環境」「発達にぴったりな環境」を念頭におくようにしていきたい。危険には十分気を付けつつ、やろうとする気持ちを見守り、共感・受容するようにしていきたい。（0, 1歳児）
- ・保育者の関わりとしての環境も大切だと学んだ。子どもの「楽しい」「やりたい」気持ちを大切に、子ども自身が自己肯定感をもって様々な物やこと、人と関わることができるようしていきたい。（0, 1歳児）
- ・部屋の中で走る等の行動が見られる時には環境があっていないということを聞いてハッとした。今クラスでそのような光景が見られるのでやはり今一度子どもたちにあった環境を作らないといけないと感じた。運動あそびを安全に楽しめる環境を引き続き考えていきたいと思う。（2歳児）
- ・普段の生活の中でも運動あそびを取り入れられるよう、保育室の環境設定などを検討し、冬季保育の中でも十分に体を動かすことができる環境を作っていきたい。（2歳児）
- ・遊びには正解がないため、できる・できないではなく「やろうとする力」に視点をおき、子どもの自由な意見を認めていけるようにしたい。また、子どもの気持ちを共感するには、同じ遊びを一緒に楽しむ（実際にやってみる）ことが大切なため、意識してたくさん体を動かしたい。（2歳児）
- ・子どもの姿を見て、環境を随時調整することの大切さが分かった。遊びを設定する際、安全面を重視する思いが強く、「子どもの気持ち」になって楽しむという思いが不十分だったと感じた。そのため設定後は保育者自らが遊び、より子どもが楽しめる環境に変更した上で子どもたちと遊んでいきたい。（2歳児）